

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、全体として持ち直しの動きが続いている」と判断しています。外需の回復が進むもとで、当地の輸出・生産は持ち直しの動きが続いており、個人消費も、Go To キャンペーンなどの政策効果もあって、全体として持ち直しの動きが続いています。もっとも、国内外で感染症の再拡大がみられる中、景気の下押しリスクは高まっており、予断を許さない状況です。景気判断のポイントは以下の3点です。

第一に、輸出・生産です。足もと世界的に感染症が再拡大していますが、各国とも感染症対策と生産活動の両立を図る方針であることから、輸出・生産は持ち直しの動きが続いています。そうしたもとで、引き続き旺盛なテレワーク需要などからIT関連財は堅調であり、自動車関連財も持ち直してきています。先行きは、感染症再拡大が需要・供給面にどの程度影響し得るか、また、世界的に雇用・所得の回復が緩慢な中、現在の持ち直しのモメンタムが持続するかが、大きなポイントとなると思います。

第二に、個人消費の動向です。百貨店の高額品や、家電、自動車の販売といった財消費は、持ち直しの動きが続いています。こうした中、飲食・宿泊などのサービス消費は、依然として低水準にあるものの、Go To キャンペーンなどの消費喚起策もあって、徐々に持ち直しの動きがみられつつあります。もっとも、足もとでは感染症が再拡大するもとで、サービス消費を中心に再び下押しリスクが高まっています。感染症の影響のほか、雇用・所得環境の動向が消費に与える影響についても、しっかりとみていきたいと思っています。

第三に、企業収益と企業支出の動向です。企業の四半期決算では、減益幅は縮小したものの、全体としては非製造業を中心に減収減益が続いています。こうした中、先行きの不透明感もあって、企業には投資案件の見直しや事業再編の動きがみられるほか、冬季賞与についても業績に連動して抑制する方向にあります。企業の動きについては、次回12月短観も含めて、しっかりとみていきたいと思っています。

関西経済は、持ち直しの動きが続いていますが、足もとの感染症再拡大は、経済の下振れリスクを一段と大きくしています。今後とも、感染症が当地の金融経済情勢に与える影響について、しっかりとみていきたいと思っています。